

## Interview インタビュー



# 辛い悲惨な事件への想いを県民相互に共有し、 「ともに生きる社会かながわ」を実現していきたい

## 黒岩祐治 神奈川県知事



聞き手——  
**河東田 博**

昨年七月二十六日に起きた神奈川県相模原市の津久井やまゆり園での痛ましい事件を聞き、かつて重度知的障害児入所施設で働いていた私にとっては我が身を切る思いでした。神奈川県では事件後の津久井やまゆり園をどう再生するか検討を行ってきましたが、この程「意思決定支援」「小規模化」「地域生活移行」を柱とする再生基本構想をまとめました。この間のリーダーシップを取ってこられた黒岩知事にお話を伺いました。

——なぜ、やまゆり園の事件が起きたのか。改めてあの時を思い出しながら、知事の率直なお考えをお聞かせください。  
黒岩知事…特異な事件で、なぜというのとはなかなか分かりません。しかし犯行をした人物の特異性、「障害者はいなくなつた

ほうがいい」という明らかに間違つた考え、独善的な思い込みで行つたことだけは指摘できます。しかも普段から障害者の皆さんに接していた元職員が、なぜそういうことを思い実行したのか、私には到底理解できません。なぜ彼が犯行に至つたのかは全く謎です。

事件の第一報を聞いたとき、既に多くの死亡者が出ており信じられない思いでしたが、事件対応への態勢を整え、すぐ記者会見を開きました。すぐ現場にも行きました。現場を見て、信じられないとしか言いようがありませんでした。

——事件の後処理についてもお教えください。

黒岩知事…現場に行くと、かながわ共同会の職員とともに家族

会の方にお目にかかりました。私は、「県の施設で悲惨な事件が起きてしまい申し訳ありません。今後原因の究明と再発防止に努めていきます」と家族会の方に謝罪をしました。

警察の捜査が終わった段階で、再び現地に行きました。今度中には入って現場を見せてもらいました。私の事件記者時代にも見たことがないような、悲惨な現場でした。施設内に延々と血痕があり、所々に大量の血の海が残っていました。

入所者の皆さんは、体育館に集められてケアが継続されていました。そこで驚いたのは、入所者の皆さんに笑顔があふれていたことでした。職員の皆さんが入所者の皆さんを不安にさせないように従来どおりのケアを続けていたのです。しかし、思いを聞いてみると、「一杯いっぱいです」「限界です」と言っていました。職員の皆さんへのケアの態勢を整えることや施設のあり方についても考えなければなりません。家族会の皆さんに意見をとりまとめしてほしいとお願いしました。やがて職員や家族会の皆さんから、「現地で全面建て替えをしてほしい」という要望が出されました。凄惨な事件の現場でしたので、やむを得ないと思います、現地での全面建て替えという方針を決断しました。

—— 昨年十月十四日に、「ともに生きる社会かながわ憲章」が制定されました。その中に、「誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します」と記されています。この言葉にどのような想いを込められたのか、お聞かせください。

**黒岩知事**…「誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会」

という言葉どおりだと思います。特別な社会で暮らすのではなく、地域社会の中で地元の皆さんと共に生きていく、誰もが同じように自然に好きな形で生きていく、ということです。

——「現地で全面的な建て替え」という当初案と「地域社会で誰もがともに暮らす」という憲章の考え方との間には、大きな開きがあったように思いますが、いかがでしょうか。

**黒岩知事**…私には早く原状復帰しなければいけないという気持ちが強くなりましたので、新しい方向性をいち早く打ち出しました。家族会の皆さんの中には、地域の皆さんに非常によくしてもらっており、この地域から離れたくないと言われた方もいました。そのためその時は、大型施設でも、地域で共に生きていくことが実現されていると思ったわけです。

—— 九月に全面建て替えの方針を打ち出し、本年一月に改めて検討し直す決断をされたわけですが、その時の知事の想い、どうしてそのような想いになられたのか、お聞かせください。

**黒岩知事**…最初に現地での建て替えを打ち出したときに、家族会の方は涙を流して喜ばれました。その時どこからも反発の声がありませんでしたので、私は建て替えるしかないと進んできたわけです。数カ月たって、突然、「大型入所施設は『時代錯誤』だ」「地域生活移行で小規模にすべきだ」「入所者の意思も確認すべきだ」という声が上がりました。私は、非常にとまどいました。

私が入所者の皆さんにお会いした際、皆さんの意思を確認す

るのは大変難しいと思いました。入所者の意思を確認するのが難しいなら、一番分かっているご家族の方の要望を受けて動く必要があると考えました。しかし入所者の意見と家族の意見は必ずしも同じではないと指摘され、突然議論が原点に戻ってしまいました。

それまでの間に「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定するなど、「ともに生きる」取組みを行ってきました。ともに生きる社会を実現させるためには、皆さんの意見を聞いて、皆さんが納得できる形で進めていくことが大事であろうと考えました。そこで、県の障害者施策審議会の中に専門の部会を設けて、専門家の皆さんに更なる検討をお願いしました。

部会では、大規模施設を建て替えて元の生活を取り戻すべきという意見と、小規模化・地域生活移行を進めていくべきだという意見が出され、両者の意見が並行したまま推移しました。部会から、「千木良地区・芹が谷地区を主な拠点とする」小規模化・地域生活移行「県が責任をもつて一三〇人の利用者全員の生活の場を確保」「利用者本人の意思の丁寧な確認」という内容の報告書をいただきましたので、その内容を踏まえ県としての基本構想案を取りまとめました。この案について、家族会の皆さんや地域の方々、関係団体の方々に説明し、議会でもご議論いただき、県の施策として「津久井やまゆり園再生基本構想」を策定しました。

「現地での全面建て替え」から「小規模化」等に大きく舵

を切ったときの知事の想いをお聞かせください。

黒岩知事・知事として一度方針を打ち出したものを検討し直したら全く違う結論になってしまいました。これは、政策の撤回であり、私としては大変辛いことでした。家族会の皆さんの期待を裏切ることになってしまったからです。

最終方針がまとまった段階で、私は、家族会の皆さんに県として謝罪をしました。幸いなことに、家族会の皆さんはしっかりと受け入れてくださいました。反対意見は何も出てきませんでした。むしろ感謝の言葉をいただき、とても救われました。方針をしっかりと形にするようにと釘も刺されました。本当にありがたいことでした。激しい意見の対立はありましたが、一つにまとまり再スタートすることができました。

これまでずっと「福祉先進県神奈川」という言葉にこだわりのもっていました。というのは、私が知事になってから、「かつて神奈川は福祉先進県だった」という言葉を何度か耳にしたことがあったからです。私にはどういう意味がよく分かりませんでした。しかし、今回の再生基本構想策定のプロセスを「福祉先進県神奈川」を取り戻すきっかけにしたいという気持ちで職員が一丸となって頑張ってやってきたことだけは間違いないと思います。その結果が、「津久井やまゆり園再生基本構想」だと思います。

今後、この神奈川県で、より家庭的な雰囲気の中で、そこを終の棲家とするのではなく、お一人おひとりの意思確認を徹底

して行いながら地域生活にも移行していける流れを新しい障害者福祉のモデルとしてつくり、「福祉先進県神奈川」の名声を取り戻していきたいと想っています。

——今回示された「再生基本構想」は、他の自治体で進められている地域生活移行の取組みをはるかに超える内容で、このモデルが具現化されれば、全国の自治体に大きな影響を与えていくことと想います。「神奈川モデル」に対するメッセージを頂ければと想います。

**黒岩知事**・今回まとめたのは、津久井やまゆり園をどうするかというものです。とても難渋しましたが、県の方針決定に至る様々なプロセスを通して、みんなが納得するものができ上がったのではないかと想っています。大変貴重なものができ上がったと想います。その意味で、この論議のプロセスと結果は、単に津久井やまゆり園のものだけでなく、神奈川県内の障害者福祉の在り方に関わる議論の基になっていくものと確信しております。

大変辛い悲惨な事件への想いを県民の皆さんと共有し、「再生基本構想」で示した「小規模化・地域生活移行」（入所者の）意思の丁寧な確認」の作業を、「神奈川モデル」として全国に発信していきたいと考えています。

——入所者の皆さんは、やまゆり園で長い間生活を送ってこれ、施設生活になれた状態で意思決定せよと言われても、とても難しいことです。地域生活を送りながら、意思決定を求める

という方法もあると思うのですが、いかがでしょうか。

**黒岩知事**・その通りだと思います。ご本人たちは、津久井やまゆり園での生活しかご存じないのです。選択肢をもっていられない。小規模化・地域生活移行と言っても、それがどういう意味なのかも分からない、経験していませんから。ご家族も分かりません。また、新しいことに挑戦することへの不安が先に立ってしまいます。従って、例えばグループホームに一回行って見ていただいて、一人ひとりに合わせた対応をしていかなければなりません。グループホームでの生活を体験するなど、いろいろなことが考えられます。そのうえで、自分の生活の場を選んでいただくと考えています。

——ご多忙の中お時間を頂戴し、誠にありがとうございました。「津久井やまゆり園再生基本構想」が、日本の障害者福祉の在り方に大きな影響を与え、誰もが地域で共に生きていくことができるようになることを願っております。

〈インタビューを終えて〉

福祉先進国では、入所施設をなくし、地域生活支援策を充実させてきています。今回示された「やまゆり園再生基本構想」は、福祉先進国のような入所施設解体・地域生活支援モデルとなり得るのでしょうか。また、徹底した本人意思の尊重／確認という新たな実践課題も含まれており、今後も多く困難が伴うことが予想されます。これらの問題や課題を乗り越えた先に、本当の意味での先進的な神奈川モデルが出来上がっていくように想います。